

第6学年 体 育（保健領域）

第6学年の学習到達目標

病気の予防について理解し，健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

第6学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	病気の起こりかた	病気の種類や病気の原因について，進んで課題を見つけようしたり，その課題について調べたり考えたりすることができる。 病気は，病原体，環境，からだの抵抗力，生活行動がかかわり合って起こることを調べ，病気はこれらの原因が重なり合って起こることがわかる。	知っている病気や，自分がかかったことのある病気を教科書でチェックしながら，なぜ病気にかかるのか考える。 なぜをひく原因を調べる。 病気は，病原体，環境，からだの抵抗力，生活行動がかかわって起こることなど，その原因を考える。
	病原体がもとになって起こる病気の予防	病原体がもとになって起こる病気の予防のしかたについて，調べたり考えたりすることができる。 病原体がもとになって起こる病気の感染経路を理解し，その予防には，「病原体をからだの中に入れない，病原体をなくす，からだの抵抗力を高める」などがあることがわかる。	病原体がもとになって起こる病気について，病原体の入り方を考える。 病原体がもとになって起こる病気について，その予防法を調べる。 病原体がもとになって起こる病気には，予防接種や調和のとれた食事，適切な運動，休養・睡眠をとることによって，からだの抵抗力を高めることの大切さを理解する。
	病原体がもとになって起こる病気の予防	エイズという病気の基本的な事項を知り，エイズウイルスは日常生活ではほとんど感染しないことがわかる。 エイズに対する偏見や差別について考え，自分の考えをまとめることができる。 エイズを正しく理解し，エイズウイルスに感染した人の立場に立って，共生について考えることができる。	エイズウイルスについて調べ，日常生活ではほとんど感染しないことを知る。 エイズを正しく理解し，エイズにかかった人の立場を理解し，共生について考える。
	生活のしかたと病気の予防	生活のしかたが関係する病気の予防について，調べたり考えたりすることができる。 生活のしかたが関係する病気の予防には，食事，運動，休養・睡眠が関係していることがわかる。	お菓子やジュース類がからだにどのような影響を及ぼすか調べる。 生活習慣病はどのようにして起こるか，脂肪がたまった血管を例にして調べる。 生活習慣病の予防には，栄養のバランスを考えた食事をとること，自分に適した運動を毎日続けること，じゅうぶんに休養・睡眠をとることの大切さについて考える。
後期	生活のしかたと病気の予防	食事のあとは口の中を清潔にしておくこと，歯についた歯垢をそのままにしておくこと，むし歯になりやすく，歯ぐきにもよくないことを知り，歯みがきの大切さを考えることができる。 むし歯や歯周病の起こり方には，生活のしかたが関係していることがわかる。 むし歯や歯周病の予防のためには，食生活や歯みがきが重要であることがわかり，よりよい生活をしようとしている。	むし歯になったときの体験談を話し合い，むし歯の原因を考える。 むし歯の進み方を調べ，むし歯の予防を考える。 歯ぐきの病気（歯周病）の症状を知り，その原因と予防について調べる。
	たばこの害と健康	たばこと健康との関係に関心をもち，その関係を調べたり，考えたりしようとしている。 喫煙や受動喫煙によるまわりの人への悪影響を理解し，喫煙に誘われたときの断り方がわかる。 たばこの害を知り，喫煙は絶対にしないという意識を高めることができる。	たばこについて，知っていることや知りたいことを話し合う。 たばこの害を調べる。 たばこが健康に及ぼす影響を知り，喫煙に誘われたときにはどうするか話し合う。

酒の害と健康	酒と健康との関係に関心をもち、その関係について、調べたり、考えたりしようとしている。一度に多量の酒を飲むことの危険性や、長い間、多量の酒を飲み続けることからの悪影響を理解し、飲酒に誘われたときの断り方がわかる。酒の害を知り、成人になるまでは決して、飲酒をしないという意識を高めることができる。	酒について、知っていることや知りたいことを話し合う。酒の害について調べる。酒が健康に及ぼす影響を知り、飲酒に誘われたときにどうするか話し合う。
薬物乱用の害と健康	薬物乱用と自身の健康やまわりへの影響がわかる。薬物の害を知り、誘いを受けたときの意志決定や行動の取り方を理解することができる。自分の健康は自分で守るために、健康によい生活行動を自ら実践しようとしている。	薬物とは何か、その乱用とは何かを調べる。シンナーを取り上げ、薬物乱用と健康への影響を調べる。薬物乱用には依存性があること、急性と慢性の害があること、法律で禁止されていること、家族やまわりの人にも迷惑をかけることなどを考える。自分の健康は自分で守るという意識を高め、自ら実践する意欲や態度について話し合う。

評価の観点・方法

<p>(1) 保健領域での評価の観点 それぞれ学習を進める中や学習後に評価します。生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培うため、健康の大切さを認識し、自己の健康を管理し改善するなど子どもが自ら健康的な生活を実践できる資質や能力の基礎を身に付けている、あるいは身に付けようとしているかどうかということが評価の観点となります。</p> <p>【健康・安全への関心・意欲・態度】 病気の予防について関心をもち、自ら健康的な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。</p> <p>【健康・安全についての思考・判断】 病気の予防について、課題の解決を目指して考え、判断している。</p> <p>【健康・安全についての知識・理解】 健康の保持増進に必要な生活行動及び病気の起こり方とその予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。</p>	<p>(2) 評価の方法 グループや学級全体での話し合いや意見交換などの発言の様子、自己評価、学習態度、ワークシート、ペーパーテストなど様々な面から評価します。学習の進行中における評価を重視し、課題を解決していく過程での子どもの思いなども大切にします。</p>
---	--

特色ある学習方法

<p>(1) 子どもの学習状況に応じて情報を提供したり、興味・関心を高めるための視聴覚教材や資料などを活用したりして、子どもの学習意欲を引き出します。学習の中で取り上げる病気の中には、実際にかかった経験のあるものも多く含まれています。子どものそういう経験を掘り起こし、それらを授業の中で適切に取り上げることにより、主体的な学習を目指します。</p> <p>(2) より深く理解していくために、必要に応じて簡単な実習（ロールプレイング）や実験などを取り入れ、学習の形態の工夫をします。</p> <p>(3) 日常生活の体験や事例などをもとに、具体的に考えたり話し合ったりするグループ活動などを取り入れ実践的な理解を図ります。</p> <p>(4) 食生活をはじめとする望ましい生活習慣、運動、休養及び睡眠など習慣形成に関する学習の効果を高めるために学校給食、特別活動、道徳、保健室などとの関連を図りながら学習を進めます。</p>

使用材教等

<p>教科書 「新しい保健 5・6年」(東京書籍) 学習の興味を高め、理解を深めるため、ワークシートや掲示資料などを活用します。</p>
--

留意事項

<p>(1) 保健の学習では、学習したことと日常生活の経験とが関連付けられたものになることが大切です。病気の予防についてより深く理解し、生活習慣、健康、安全などについて「ああ、なるほど」というような実感や納得を伴ったものにするため、学習したことが実践できるように、ご家庭でもご協力をお願いします。</p> <p>(2) 酒の害、たばこの害、薬物乱用の害については、多くの子どもにとってあまり身近に感じられないようにも見えますが、近年では、飲酒や喫煙が小学生にも増えてきており、なおざりにできません。誘いがあっても、はっきりと断ることができるようになってほしいと思います。</p>
